

機関紙
News Release

ニュース リリース

第013号

発行者 大仙市手をつなぐ育成会
発行責任者 柴田 貞二
TEL 0187-65-2525
事務局 〒014-0802
大仙市払田字念仏谷地27-1
新田亮子 TEL 0187-69-3108

発行日 2014-12-1

第56回手をつなぐ育成会

秋田県大会(湯沢・雄勝大会)が開催されました。

とき 平成26年8月31日(日)

ところ

湯沢市文化会館



秋田県内から保護者・本人合わせて、約500人の参加のもと「手をつなぐ母の歌」から開始された式典には県福祉部長、湯沢市長、湯沢雄勝地区出身県議会議員等の出席を仰ぎ来賓皆様から祝辞・歓迎のお言葉を頂きました。「地域社会と絆を深め、安心して暮らなる共生社会をめざそう」をテーマにアトラクション、講演、シンポジウムと続き、その内容は近年に無い最も充実した大会であったと思います。

大仙市手をつなぐ育成会からの参加者です。20数名のほず、連絡の不徹底によって全員は撮れておりません。お詫びします。今回も大仙市の福祉バスを利用しました。午前9時前に大仙市役所出発、途中、美郷町にて参加者を乗せ午前10時には湯沢市文化会館に到着しました。今回も大仙市生活支援課職員の同乗です。バス利用者のチェック、安全に対する配慮等いつもお世話になり有難う御座います。



秋田県知事表彰



秋田県知事表彰を受けた秋山喜男さんです。長年に渡って中仙地区での育成会活動が認められました。おめでとうございます。

秋田県育成会会長表彰

秋田育成会会長表彰を受けた須田秀子さんです。長年に渡って仙北地区での育成会活動が認められました。おめでとうございます。



シンポジウムに話題提供者として出席された大仙市NPO法人障がい者自立生活センター「ほっと大仙」障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」施設長の奈良克久氏です。事業所を開所して今年10周年を迎えました。これまでの苦労話と「ほっぺ」名の由来等話に強い感銘を受けました。



秋田県手をつなぐ親たち「第49号」が発行されました。会員皆様に配達され熟読されていると思います。その中で1ページから16ページに掛けて第56回手をつなぐ育成会秋田県大会(湯沢・雄勝大会)の内容が詳しく記載されています。最近に無いまとめ方で見応えのある内容です。重複しないようにしました。

平成26年度交流・親睦会

平成26年度の交流・親睦会は10月23日(木)太田町にある奥羽山荘で行いました。参加者は20人ほど、市の福祉バスは使用せず、山荘の送迎バスでの使用です。バス利用者は大曲市内在住者が多く、近くの会員は直接マイカーでの参加でした。グランドゴルフに挑戦する方、温泉と食事、会話に元気を頂いた交流会でした。



午前10時前に山荘に着いた。早速、グランドゴルフに挑戦・・・16名の参加者、4組に分かれ熱戦が開始されました。



グランドゴルフ成績表

2コース16ホールの成績

優勝	泉 選手	42点	第4位	渡部 選手	51点
準優勝	西鳥羽 選手	43点	第5位	伊市郎選手	52点
第3位	柴田 選手	49点	第6位	向平 選手	54点

成績発表は左表だけにしました。18人中第6位までは一流である結論です。

秋田県手をつなぐ育成会県南地区協議会開催しました。

とき 平成26年11月6日(木)

ところ 大仙市中央公民館



今年で4回目になるでしょうか、大仙市では2回目の開催です。県南地区の各市町村の育成会、各施設保護者会の皆様にご案内しました。全員で35名ほどの参加者でした。その中で大仙市賛助会員であります渡部県会議員、加藤県会議員、大山市会議員、泉町会議員等、会員皆様と一緒に「知的障害がい児・者」に係わる諸問題等について勉強しました。しかも「素敵なゲスト」として温かい励ましのお言葉を頂き感謝申し上げます。

研修内容

- 1 これからの育成会活動について 10:30~12:00
 - ① 全国手をつなぐ育成会連合会の最新情報
秋田県手をつなぐ育成会会長 谷内和夫
 - ② 秋田市手をつなぐ育成会の組織・活動について
秋田市手をつなぐ育成会副会長 高橋精一
- 2 障がい福祉サービス事業所「ほっぺ」の活動について
奈良克久 施設長 13:00~13:40
- 3 懇談会 13:50~15:00

秋田県大会に続き講師にお願いしました。今日の昼食は「ほっぺ」で作った弁当です。今朝3時から準備に取り掛かったと聞きました。10年掛けてようやく弁当の販売が出来るようになった事。外食店との競争有り、仕入れの工夫、喜んで頂く料理の工夫等涙ぐましい努力の賜物である事。さらなる発展を祈念申し上げます。



本人活動・ボーリングとカラオケに集まれ!

とき 平成26年11月22日(土)

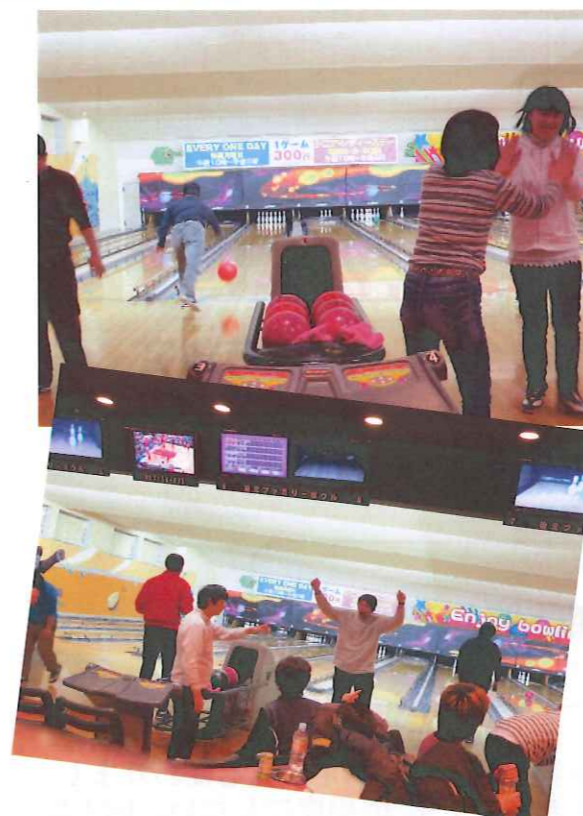
本人活動支援事業

ところ 仙北ファミリーボウル

大仙市手をつなぐ育成会



本人活動支援事業として今年で2回目になります。大仙市の入所施設での利用者、在宅にて諸支援施設で頑張っている利用者、保護者、一般の方々に参加の声掛けをしました。本人が18名、保護者が11名、一般の方々が11名ほど、全体で40名ほどの参加者でした。ボーリング8レーンを独占、2ゲームを消化しました。集合時間9時です。もう8割の参加者が競技の準備完了です。遅刻者は全体写真に撮れていない・・・



8レーン貸切です。準備体操9時30分に終了です。競技の開始は午前10時予定でしたが待ち切れません。2ゲーム終了まで2時間ほど。汗だく皆さん頑張りました。休憩を兼ねて昼食時間に移ります。今回はお母さん達が作った「芋の子汁」がメインです。美味しく一人2杯は食べました。成績発表有り、皆さんに豪華な賞品が贈られました。カラオケの時間に移ります。演歌、ポップス等の得意な方々に分かれて時間の経つのも忘れて歌いました。

※ 会員・支援者等の研修会での講演内容(特に印象に残った点)を要約してみました。

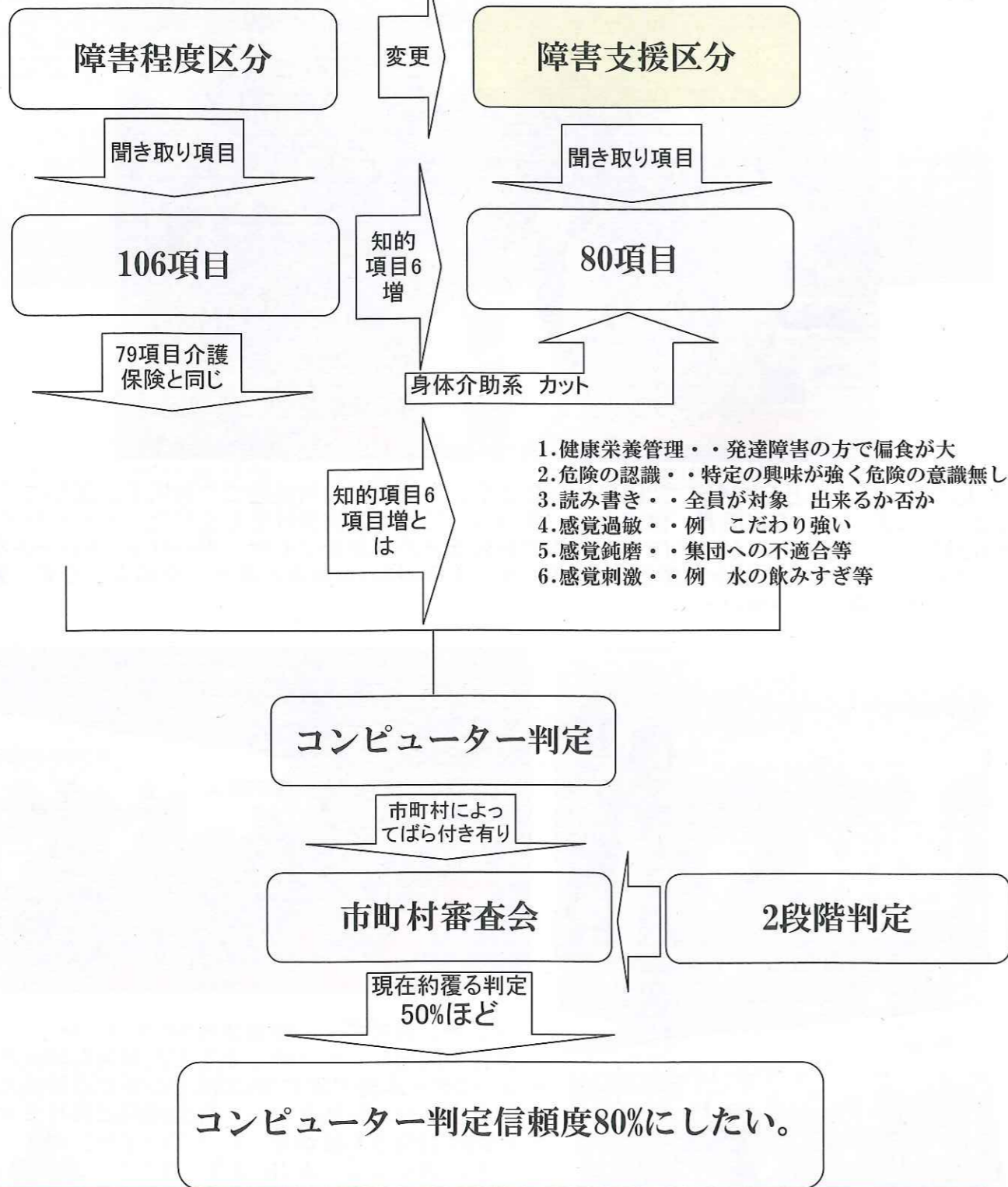
会員・支援者等研修会(平成26年3月8日・「ルポールみずほ」にて)

テーマ「障害者総合支援法と障がいのある子どもを支える法制度のいろいろ」

講師 又村 あおい 氏 機関誌「手をつなぐ」編集委員他いろいろ

2. 「障害者総合支援法」

前回は「障害者権利条約」日本国は平成26年2月19日に正式に批准国になった。その責務が大きい。障害者総合支援法と名を変えた。大きな特徴として理念を謳っている。今回は障害支援区分について記載します。



知的障がい者に対する支援サービスを受ける為にどうしても潜り抜けなければならない過程に「障害支援区分」の判定を受ける事。最終的に市町村が判定します。判定項目も変わりました。受ける年齢満18歳までと聞いています。コンピューター判定変更率20%程度にしたい。国の思惑になります。

(賛助会員の要望が強く復活します。応援して下さい)

連載小説 飛躍への道 (6)

前回までのあらすじ

昭和39年10月、待ちに待った東京オリンピックが開催された。建設ラッシュに沸いた首都も昭和40年代は国土の開発は地方に向けられた。秋田県も遅きに帰するが県内の国道の改良工事が進められた。国道13号線、国道45号線の改良である。

喜助は工事の形態が国直轄から、民間会社への発注に変わる事の準備を怠らなかつた。若き人財の確保は農業土木専行する吉成教授に向けられた。昭和40年代に入り、毎年3人の一流の土木技術者に育てる信念が入社を許した。毅もその一人になる

第2章 実践のすべて 二

喜助は昭和40年8月下旬、秋田工事事務所監督官室に呼ばれていた。高橋監督官と対面した。用件はなんだろう・・・半信半疑の思いで話を聞いた。曰く「今、角館にて国道45号線の改良工事とするバイパス工事が今年度から始まった雲沢から細越に抜ける延長5km、橋梁1基有り5年計画で完成する計画になっている。今年度、橋梁工事に伴う取付道路を地元の熊谷組に発注しました。所がね・・・このお盆が過ぎた時点で熊谷組が倒産したという。困ってね・・・契約書を見ると工事の保証会社は伊藤さんになっているじゃないですか・・・今日お呼びした用件はご理解出来ますね」

話はまだ続いていた。「取付け道路工事は9分通り出来ているが完成検査に必要な書類のまとめが出来ていない。伊藤さんの会社には若く優秀な技術者が多くと聞く、この際・・・保証人の立場ですから、まとめてくれないかねい・・・」

喜助は嫌な顔せず笑って応えた「なんだねい・・・監督官、判りました保証人の責務を全うしますよ・・・まかせて下さい」高橋監督官は安堵した。さすが秋田県でも5本の指に数えられる建設会社に成長した経営者の意気込みに感心した。「この件は山本君に任せよう・・・」その一言が横手金沢改良工事に携わっていた毅に廻って来たのである。

現場代理人の鈴下氏は半人前の毅に社長命令であるから、角館町の熊谷組に一週間行ってくれ・・・辞を出すと・・・毅は代理人の言葉を信じていた。たいした事で無いから現場に行って完成検査の書類を作ればそれで職務を全うする。山本君のお手のものでしょう・・・頑張る来いと激励した。毅は何の疑いも無く生保内線に乗り出掛けたのである。事務所は駅前であった。小さな事務所に人影も居ない。大きな声を張り上げた奥から老いた女性が現れた。毅は来所した事情を伝えた。倒産したから従業員は解雇しました。それ故に工事に関する事について判る人はいないという、ただ、工事に関する施行記録はここにありますから、それを見て完成検査に間に合うように書類を作って頂きたい。毅は面食らった。入社してまだ一年と5ヶ月しか立っていない。それでも毅はやる気があった「一週間お世話になります」社長の奥様でしょうか、若造とする毅に丁寧に頭を下げた。

設計書有り、工事の内容を何とか理解出来た。完成検査には写真、品質、出来高、寸法管理、工程管理等の整理が必要である事。まずは書類作成一覧表を作り、出来次第消して行く方法を取った。どうしても助手が必要、用紙の確保図面のコピー、写真店への依頼等の雑用がある。老いた奥様とやるという・・・一週間掛かりなんとかまとめた。

完成検査での説明する立場でなかったから・・・これならば大丈夫であると太鼓判を押して毅は引き揚げた。検査が無事終わったとの連絡は毅には無かった。そうだったのか現場練りのコンクリート配合設計を作成しながら三月前の事を思い出していた。建設省秋田工事事務所とのお付き合いはこの時から始まった事を窓越しに見える現場練りコンクリートプラントを眺めながら納得した。

国道45号線角館地区の改良工事、最初は古城橋下部工事からの受注、最初の年度は井筒基礎3基の施行、次年度橋脚の躯体、橋台の施行、5年間に渡り角館バイパス5km(雲沢～細越間)を喜助が経営する会社が独占的に受注している。

この時期と重なる。喜助と共に満州鉄道に携わった岩手県出身の荻田氏がいた。引き揚げも同じ舟で帰国している。同期の桜であり、苦勞を共にした親友になる。喜助宛に一通の手紙が届いた。岩手県知事に立候補して見事当選したという・・・喜びの手紙であり、何時でも岩手県に来てほしい・・・との内容であった。喜助も喜んだ。早速祝いの電報を・・・まだ、足りない時下にあわなくては・・・黙っていられた。岩手は米が不作と聞き、秋田米5表自宅宛に送った。当選の便りから7日が過ぎた、早速当選祝いとばかり盛岡市、県庁へと乗り込んだのである。

荻田岩手県知事は喜助を快く迎えた。知事曰く秋田米5表の処理にただ今苦勞中であること。大笑いになった。知事からすれば喜助は建設業として開拓している事を知っている。仕事一つや喜助が素直に口にする事を待っていた。

しかし、喜助の話題は満州の思い出話・・・秋田県の実情・・・決して仕事を下さいとは言えなかつた。親友とする知事にスキャンダルを持ち込む事は辞めよう・・・県政に身を投じ頑張るほしい願いが強かつた。それから三ヶ月が経過して、会社に通の指名通知が入った。岩手県大槌町、県道とする橋梁下部工事の指名通知である。喜助はまさかと思いつつも知事の配慮である事を察した。有り難い事に尽きる。喜助は喜び余り涙を流した。

岩手県大槌町への進出がこの時から始まった。この工事に関する技術者は吉成教授が紹介した橋本が配属になっている。未知の世界への乗り込みは軌道にのるまで幾多の苦勞があつたと察する。

昭和41年からでしょう、横手盆地内の道路、河川、通信設備、教育施設、庁舎等の公共工事が数多く、国、県、市町村等から発注されるようになった。それに伴って当然の様に建設会社が竹の子の如し、各市町村に生まれた。実績が無くとも地域の利を利用して、喜助の会社と対等に戦う企業が出て来た。喜助はこの若造かと思いつつも決して力で捻じ伏せる事をしなかつた。「頑張らたまえ・・・」と、逆に企業を起こした事を褒め称えた。喜助はこの時代に合う技術者育成にはそこらの竹の子企業とは格が違うぞと自負を持っている。土木、建築、舗装等に関する職員は関係する資格を全て各自持つことを心情として、大手企業への派遣、大学校への派遣、積極的研修の派遣等に社の方針に掲げていた。

その結果は新入社員が1年の経験があれば法律に定められた資格をいとも簡単に取得する社員が現れた。ベテランの社員から見ればこれは大変な事になる。自然と社風がお互いライバル意識を持たざるを得ない環境を作った。つづく

大仙市手をつなぐ育成会

入会のご案内



障がい（児）者をもつ保護者として、悩みや要望を語り合ったり

福祉の増進のために活動する仲間になりませんか！

りねん 「利用者が一番のプロは私達 未来を作る出会いに夢を持つ」

◎ 会員 大仙市に住む障がい（児）者の保護者 ◎ 賛助会員 この主旨に賛同する方 地域問わず

◎ 年会費 2000円以上（会員・賛助会員同額）

◎ 入会申込先 会長 柴田貞二 TEL0187-65-2525 ◎ 事務局 新田亮子 TEL0187-69-3108

※ 入会の申込者には入会申込書、振込み用紙を送ります。

賛助会員名

村上 哲朗 様	高橋 輝明 様	武田 雄平 様
大山 利吉 様	茂木建設(株) 様	佐藤 芳郎 様
児玉 裕子 様	細谷 洋造 様	
古谷 武美 様	樫尾 茂 様	H26.11.23現在
泉 繁 夫 様	渡部 英治 様	
小林 勝征 様	加藤 麻里 様	

左記の方々が平成26年度、大仙市手をつなぐ育成会（以下、育成会という）賛助会員の皆様です。皆様のご支援によって育成会では正常な形で運営がなされている事に感謝申し上げます。正会員の高齢化等の理由によって会員数の減少が続いております。しからば若い方の加入も少なく、賛助会員に頼っているのが現状です。秋田市、湯沢市、横手市、美郷町と地域を問わず、ご支援を頂いている事にも感謝申し上げます。育成会では年2回の機関紙発行して皆様に情報をお届けするのが推一、温情に報いる手段であると思っております。愛読のほどお願い申し上げます。

大仙市知的障がい者相談員

飛澤ヒロ子(小貫高畑)	0187-62-3715	三浦ミサ子(鍵見内)	0187-56-2299
進 藤 功(六郷西根)	0187-65-2622	藤原正人(協和船岡)	018-893-2139
工藤正悦(北檜岡)	0187-72-3333	新田亮子(払田)	0187-69-3108
佐々木文雄(大沢郷)	0187-78-1656	高橋哲美(太田町)	0187-89-1139

※在宅支援や障がいのある方の身近な相談役として活動しています。秘密は厳守しますので、普段の生活のことや障がいのことなどをご相談ください。なお、相談員に関することは生活支援課に問い合わせ下さい。

大仙市生活支援課 TEL0187-63-1111(内線162番)

※ 秋田県手をつなぐ育成会・H・Pアドレス <http://www.akita-ikuseikai.jp/>

編集後記

平成26年度、2回目の機関紙発行になりました。賛助会員の皆様には心待ちの感じかと思えます。今年度もご支援の程お願い申し上げます。正会員も減少の傾向です。お互い高齢化を向えて、体調不良等の原因かと推測します。何とか若い世代の加入促進に会員皆様の努力を期待したいものです。今年度の事業も総会、研修等を終えました。8月31日第56回手をつなぐ育成会秋田県大会が湯沢市文化会館で開催されました。全県から500人を超え近年に無い充実した大会でした。大仙市手をつなぐ育成会の今年度事業は大半終了しました。本人活動支援事業を含めて役員皆様の労に感謝申し上げます。賛助会員も減少の傾向です。2回ほど「飛躍への道」連載を中止しました。賛助会員の強い希望がありました。復活します。主人公「喜助」実存した人物です。横手盆地の開発に強いリーダーシップを発揮された方です。実話と少しのフィクションを含めた連載です。ご期待下さい。Teiji shibata